

# ワケ カタチには理由がある(29)

Shape follows Function & Taste

## ～コンベア F-102A デルタダガー～



(↓ YF-102 と～エアリアルールの実証例)



本機は 1953 年に初飛行したデルタ翼の米国空軍の迎撃戦闘機です。「ネズ爺&ハテニヤンの特許探偵団 vol.5」で取り上げたように、この機体は、機体の形状で性能を向上させられるという「エアリアルール」の有効性を実証した機体でもあります。その試作機 YF-102 と比べると、基本的な構成は同じでも、全長が長くなり、また胴体部分がまるでコカ・コーラのビンのようにくびれていて、同機はこの形状変更によって音速を超えることができました。コンベア社(Convair)の名前は、**Consolidated Vultee Aircraft Corporation** から来ており、かつて大戦中に B-24 やカタリナ飛行艇などの大型機を生産していた会社でもありました。本機は米国空軍が使っていた板付空港(現在の福岡空港)にも駐屯したため、同空港ビルの壁面にも描かれています。

### 【模型について】

(福岡空港の壁画→)



中国のモンモデル社(MENG)製の 1/72 のキットです。新しい技術レベルで開発された美しいモールドのキットです。それまで唯一の 1/72 キットであったハセガワのものは、ウェポンベイを開放した状態しか作れなかったのに対して、こちらは開閉を選択できて「扉を閉める派」にとって大変ありがたい構成です。一緒に写した YF-102 は前回(28)の C-45 の銀塗装の手法を教えてくれた T さんの作品で(WhiryKits)、シルバー塗装が美しいです。(中川裕幸 2021年6月、改定2026年2月)